

会員だより

※氏名の後の()は退職年を示す。



石巻電友会
鯉谷たみ子(昭56)

月日の経つのは早い物だとよく言いますが昭和56年に退職して33年になります。在職中から趣味で習っていた舞踊は現在も続けて居ります。昭和40年に古典舞踊を中村流中村芝翫師匠に13年習い、その後現在の藤乃流宗家家元藤乃豊紫師匠より53年10月に直門師範を師得し藤乃豊秀の名をいただきました。家元の踊りに魅せられ心がわきました。踊りを通して礼儀の正しさ又心の豊さ、物事をやり抜く心の強さ等が身につくものです。多くの踊りの仲間やお弟子さん達に恵まれ又家族に感謝の気持ちでいっぱいです。又年一度の仙台電力ホールでの夏のおどりや介護老人ホームなどへ行きチャリテイ舞

踊等に賛助出演しております。これからも体には気をつけて年を忘れて(83才)頑張りたいと思っております。



大崎クラブ
門脇 正俊(平20)

退職してから早くも6年目です。あつという間です。今は古希を迎え宮城いきいき学園大崎校在学中で生涯学習として、月2回学習、クラブ活動等で受講しています。又趣味等では卓球、太極拳等での汗流しています。卓球は年数回対外試合等で緊張感を味わいながら交流を深めています。又かわい孫と時折り遊んでいます。最近OBパークゴルフ愛好会に入会したので時々練習しています。これからも明るく、楽しく、余り無理しないで健康に留意しながら遊びます。会員の皆様、今後共よろしく、お願いします。



小牛田クラブ
北川 澄男(平18)

会社を退職してから8年、早い

もので古希の年齢になりました。健康には多少自信があったのですが、昨年腰を痛めてから走ることに困難になり、10年間所属していたソフトボールクラブを脱退し現在はパークゴルフ、グランドゴルフで楽しんでいます。

また、5、6年前から始めた家庭菜園も慣れてきて収穫の楽しさも味わっています。

今年も暑さが厳しい中、涼しいうちに毎朝1、2時間野菜の水をかけたたり、草取りを行ってきました。

特に定めた健康方法はありませんが、1日の無事に感謝し、晩酌(少しのビールと焼酎)をストレスを溜めないよう、余生を楽しんで行きたいと思っています。



福島地区電友会
高橋 敬一(平18)

東日本(株)を平成12年3月辞職、引き続きNTTグループ会社に再雇用、平成18年3月(株)東日本一福島を最後に定年退職。その後縁があり、通建会社に再就職して昨年の1月まで勤務してい

ました。電友会へは平成12年に入会し、平成22年からは福島地区役員として会のお手伝いをする事になりました。昨年からは事務局長に就任し1年が過ぎました。ようやく会の活動や、年間計画行事の進め方などが理解出来て来たところです。

現役中は転勤の連続で単身赴任が長かったこともあり、地域活動に参加出来ずにいましたので、東日本(株)を退職の年から居住町会の役員を引き受け今年で14年目になり、現在副会長に就いています。

また、近隣には福島市の観光名所桃源郷として有名な「花見山公園」があり、公園近隣町会と福島市で組織する「花見山観光振興協議会」の環境部会委員として、花見山原風景の維持と、周辺地域生活環境維持のため、公園に通じる遊歩道などへの花卉の植樹、また、年数回の除草やゴミ拾いのクリーンアップ作業を行い協力しています。



吾妻電友会
浅野 敬子(平25)

「福が満開福の島」は正に素晴ら

しい季節を迎えました。大雪にもめげず桜や花木木達の「どうよ!!」と咲き誇った姿は、一層美しく勇氣と感動を覚えます。私は昨年から絵手紙と里山トレッキング倶楽部でお世話になっております。初参加の一切経山登山で、登山靴のゴムの劣化に気づかず途中ゴムが剥がれ落ち、ジャンパー線やテープで応急処置をして貰い登った失態を演じましたが、皆さんで冗談を交わし大声で笑い、大自然の季節を味わいながら自分の体力に挑む仲間が沢山出来た事がとても嬉しいです。そしていつも人生のマイスターである諸先輩から元気で心豊かに生きる人生の楽しみ方等を学んでいます。最近やっとスローライフが馴染んで来ました。今は健康一番で自分らしく生きることがモットーに、地域活動にも積極的に参加しています。



電電原町退職者の会
半谷 敬一(平 14)

①東日本大震災以降、避難生活中ですが退職してから12年、社会福祉協議会で実施している独り暮らしや

高齢者世帯に対する弁当の配達をボランティア活動としてやっています。

②自宅は、原発の警戒区域(避難解除準備地域)のため、宿泊はできないが日中の帰宅は自由なので、1週間に1度程度帰宅して、自宅周辺の草刈りや清掃・家の片付けをして、いつでも自宅に戻れるよう頑張っています。

③古希を過ぎました。一日2回(2時間程度)の散歩を毎日欠かさずにやっています。そのためか至って健康で元気に過ごしています。

山登りや旅行・パークゴルフなど、地域の友達と楽しく交流を深めあっています。これからも健康に気をつけて、残された人生楽しく、有意義に過ごしていきたいと思っています。

退職して早13年経ちました。振り



電々相馬クラブ
工藤 晴弘(平 13)

退職して早13年経ちました。振り

返れば退職前のライフプラン研修が今の生活に大いに役立っております。今は妻と2人暮らしですが昨年7月に妻が脳梗塞で7ヶ月間の入院生活、この間病院まで往復42キロを週2回行ったたり来たりと独身に戻ったような生活、この現実がこの先どのよう

に展開してゆくのか不安でいっぱいでした。入院3ヶ月目で開頭手術も無事終了落ち着いてからリハビリ開始、車椅子での移動も可能となり院内での洗濯が出来るようになり、今年の1月に退院、リハビリに勤め今では車椅子は腰掛代わりで杖で家中を移動出来るようになり、私が食材の買出し、妻が炊事と分担出来るようにまで回復いたしました。訪問リハビリで看護師の方と杖での外出の練習も始めており好きな温泉めぐりが出来る日を待っている日々です。



電友あさか会
品川 萬里(平 17)

OBになって9年、会員にさせていただいて2年?皆様のお仲間に入れていただき光栄に存じております。

市長の職、仰せつかって1年になりました。

選挙も市の行政も、つくづく「ICT時代やなー」と感じ入っております。

4年目になる除染も去る2月の大雪もICTがなければ、こうは取り運ばなかつたと思います。

子どもの教育も今やタブレットが常備品になろうとしています。医療も高齢者福祉もICT、ICTになっていくでしょう。

私個人もFB(フェイスブック)やSM(ショートメッセージ)で昼も夜もありません。FBは市政目安箱。質問やお知恵拝借にも親切なお応えをいただいております。

ケイタイSMは、会合の日程調整やご案内に重宝しています。印刷書面よりも直結性を感じて下さり、お許しをいただいております。

これも会員の皆様のご尽力とそれを継承されて日夜技術開発、サービス向上に努めておられる現役の皆様のおかげと感謝、感謝です。

でも電友あさか会(ナマ!)は何より。

次回を楽しみにしております。



白河地区電友会
宗形 市蔵(昭59)

10年前くらいまでは白河地区電友会「ふるさとクラブ」の一員として10年位観光ボランティアをしておりましたが年齢のせいか膝を痛め歩行困難となり観光ボランティア継続ができなくなり身を引く治療に努めた結果現状は大きな痛みはなくなりました。

観光ボランティアは現在は市で力を入れるようになり「ふるさとクラブ」は全面協力していません。

その後第一腰椎圧迫骨折で平成21年1月に入院し加療、1ヶ月程で退院、自宅静養して落付いてきましたが痛みがとれなくて、今でも軽い痛みがあり重い物を持つたり力仕事ができず悩んでおりますが寝ているわけでもないのに、電友会の事務的な仕事を担当してみんなの役に立てればと10数年協力しておりますが90才近いのでやめたいと思っています。



会津電友会
佐藤 明男(平14)

退職時に市のボランティア組織ができ加入。主に高齢者の草むしりやスーパードでの買物支援を。あやめの咲く頃は車イスを押したり、ゴミ出しの仕事もある。夏は各施設での納涼祭や盆おどりの手伝い。民生委員の仕事は4年目に。65歳以上で一人ぐらしの方の見守り・安否確認をしている。こんな事で皆さんから元気をもらったり、生き方を学んだりしている。閉じこもりがちなので外に出て刺激を注入している。高齢者が高齢者を支えなければならぬ時代。体調の維持に努め、今後も続けていく。

わが家のボランティアでは畑の草むしりなど。キュウリ・トマト・かぼちゃ、シシトウ……など成長と収穫が楽しみ。習い事は何かせねばと考えただけで何もせず。それにしても退職後の老後の過ごし方ってなかなか、むずかしいものだ。



盛岡電友会
佐々木 恭一(平13)

平成13年12月に早期退職し、再就職、再々就職を経て今年の3月に勤労者を卒業した。3月には、市役所から介護保険被保険証が届き、いよいよ高齢者の仲間入りをしたかと実感しました。小生は、やっかい者のように言われる団塊の世代でこれといった特技や趣味がないが還暦に菩提寺で「釈恭敬」の法名を頂き入学式を済ませた。これからは宗祖の親鸞の教えに倣い、「生かされる日々」となる訳だが捨てきれぬ煩惱が多く苦笑いの状況である。一病息災と言うが腰椎椎間板ヘルニア、高血圧等複数病とうまく付き合ひ、月の何日かは、古里(遠野)の畑の管理に勤しみ、天海大僧正の遺訓である「気はながく勤めはかたく色うすく食ほそうして心ひろかれ」を肝に銘じて過ごそうと思う今日この頃です。

遠野地区電友会
中屋敷 仁(昭61)

80才の春を迎えました。3年前から体重が10キロ余り急減して驚きました。快復の兆しのないままですが元気です。強風のときは飛ばされそうになります。

毎週の生活は、グラントゴルフに2日、釣りに1日、競馬に2日、あとは地域活動と昼寝のくり返しです。連休中は4日間水沢競馬に通いました。女房の激励を背に出かけましたが、歩行数が1日4千歩位となったのがプラス、財布がマイナスとなったのが残念。悪友と語り合えるのが楽しい。

皆さんの嫌いになった煙草は20本喫つてますが病院通いもせず、年相応に元気に暮らしております。



おおこなと地区電友会
浅野 秀一(平18)

定年退職して7年、サラリーマンであれば誰でも通る道とは思いつつ、定年とはまだまだ先の事と他人事の

様に思っていました。現実には直
面すると安堵感と共に孤立感を覚
え寂しい気がしました。反面これ
からは拘束される事なく、自分自
身で活用できる時間をスポーツや
趣味を通じて有意義に過ごそうとポ
ジティブな考えにも起ちました。今
や日本は世界トップレベルの長寿
国です、退職後も数10万時間の活
動できる時間があると聴いていま
す。まさに、「人生三毛作時代」に
突入です。と言う事から現在はテ
ニス(硬式)クラブを立ち上げ週
2回の練習、毎月OB会での船釣
り鮎釣り、暇な時はGG協会への
参加交流、仕事は週3日、市施設
のPC予約受付業務で結構毎日楽
しく、遊びに仕事に励んでいます。
これも健康なればこそで、今後は
尚一層、健康に留意をし毎日を過
ごしていきたいと想っています。

最後になりましたが3年前の大
震災(津波)では全国のNTT
(OB)の皆様より物心両面に亘
る、心温まるご支援を深く感謝し
ているところでありました。改めて
御礼申し上げます。現在は何事も
無かったかの様な、震災前の普段

通りの生活を取り戻しております
のでご安心下さい、御礼かたがた
近況報告と致します。



水沢地区電友会の
今野 弘(平25)

会津勤務の時、单身仲間と新鶴
村の中田観音に行ったことがある。
もう20も昔のことだ。堂内には「抱
きつき柱」があり、太い柱に手を
回して「長患いしないように」と
念じると、不治の病に臥しても苦
しまず、2、3日で願いが叶うこ
とから「コロリ観音」の別名がある。
私達も柱を抱き適当に願ったりし
た。それっきり訪ねたことがない。

退職直後は自由な時間を満喫し
何もしないでいたが、近頃はパー
ゴルフを始め、たまのゴルフや
ジム等で適当に身体を動かしてい
る。健康で老い、病の時は余り厄
介をかけずにとと思うが、中田の観
音様も二昔も前の人などコロリと
忘れてるに違いない。もう彼岸
に行った「抱きつき仲間」のMさ
んとSさんを想い、元気なうちに
柱にしがみついてみるかと、少し

本気で思案するこの頃です。



室古地区電友会
城内富美子(平13)

退職後の4月、私を待っていた
かの様に「ヘタでいい」「ヘタが
いい」の絵手紙講座が開講され、
早速人講しました。

釜石から年配の男の先生が、車
窓からの風情を絵手紙心に包んで
通って頂き、基本から「ヘタでい
い」の奥深さを指導して下さいま
した。ところが平成19年1月に亡
くなられたのです。

大黒柱を失った私達は途方にく
れ、思案の末先生の教えを思いお
こしながら釜石の同先生の姉妹
サークルとの交流で刺激し合いな
がら続けて来ました。今年で13年
目になり、仲間と施設訪問などの
ボランティアで活動しています。
今後も自分の心の糧にしたいと
思っております。

他に3つのサークルに所属、少々
の畑作り、孫との関わり、この季節
少年野球の追っかけと自ら忙しさを
求めているこの頃です。

少しずつ身辺整理をと思ひ、手が
けるのですが、どれも大切な仲間
との絆で築き上げたもの。捨てが
たく困っています。大勢の出逢い
や別れ、心のすれ違いもありまし
たが、在職中お客様を始め先輩や同
僚に接した様々が今の自分である
と感謝と懐かしさでいっぱいです。



北上電友会
柳 清(平12)

早期退職して14年になります。
持病があり、定期的に診断を受け
ながら病院とお友達になっていま
す。

数年前から健康管理が第一と、
外出時以外は、毎日朝と夕方に
ウォーキングを日課としています。
朝は1時間20分、夕方は40分程度、
歩数にして約15000歩位にな

ります。歩いた後は心地よい気分になります。

日中は狭い畑を耕し、ネギ、トマト、ジャガイモ等々を植えました。草取りが大変ですが、今から収穫が待ち遠しいです。

OB会のグラウンドゴルフサークルに入会していましたが、昨年迄参加する機会が少なかったと思う。今年から出来る限り参加し、皆様と楽しくプレーをしたいです。時々、OBの方からも連絡があり、仕事のお手伝いをしています。が、「ボケ」防止のため大変感謝をしています。

子供が都会に行き、家内との二人生活が20年以上になります。地域に奉仕しながら、余生を家内と旅行しながら温泉泊りを楽しみとしているこの頃です。



弘前地区電友会
成田 良二(平22)

契約社員として2年間勤めた後完全退職しました。

最近、団塊の世代の高齢化が話題になりますが私もその中にいま

す。医者通いも多くなり税金の確定申告では同世代の妻と合わせて医療費控除を毎回申告するような状況です。

少しでも健康のためになればと思い早朝ウォーキングをしています。5キロメートルを40分程度を冬場を除き出来るだけ毎日歩くようにしています。

とは言え、雪解けの進んだ春先に新雪の下のアイスバーンに気が付かず転んで肩を痛め、逆に医者通いをする羽目になり、治るまで2年もかかり、あらためて老化を実感しているところです。

OB仲間から誘われて始めたパークゴルフも4年目になりました。これからも老化防止、健康維持のためにもできるだけ続けていきたいと思っています。



八戸地区電友会
工藤 英夫(平9)

各地を転々とする暮しからの今の所へ定住して、10数年は過ぎました。リタイヤしたら村の暮らしも良いのではと、ふらりと立ち寄

りそのまま何となく移住した所でした。緑に囲まれ、肉眼で天の川が観測できる程空気が澄んでいる自然豊かな所で気に入っています。唯一の泣き所は、標高が200メートルあり冬の寒さは厳しいです。八戸自動車道の南郷ICの近くで移動には便利な所で、免許返納は当分見送りです。

日課は、高齢者と高齢犬の散歩から始まり古い仲間との山登りや、たまには里の街へ下り居酒屋での歓談、更には、ボケ防止にネットでの世界情勢の閲覧など、庭の草取りも少々とまあ、全体的には「日々これ好日の感あり」の毎日です。



十和田地区電友会
吉田 明雄(平16)

・奉仕活動

退職後それまで出来なかった地域の為に少しでも役にたちたいと思っていたら町内会から社会福祉協評会の評議員になって欲しいと言われ引受たのを機会にかつて父、母が行なっていた奉仕活動にかか

わる事となりました。アイサービ

センターでの各種行事の手伝いしようがい者施設での12月から3月までの花の栽培、椎茸栽培の手伝い、町内会の福祉部員としての年5回の老人、子供達との交流会の手伝い、老人クラブの会長としての活動等昨年12月からは民生児童委員となり300世帯を2人で受持ち一人暮らしの方の訪問、又困り事や健康についての相談相手になったりする等色々な事に携っています。父・母が行った民生児童委員、交通安全指導員、赤十字奉仕等これからも敗けないように頑張ります。



霞城クラブ
橋本 源一(平25)

今年3月にNTTグループを退職いたしました。

単身赴任生活は連続30年余の長きに亘り、仕事一筋を本分とし、時代の潮流に身を任せて邁進しており・・・そして、斯様な「男の盛り」は、虚しくも過ぎ去りました。振り返れば、家庭はもはや無き

ものとし、省みることすらなかった日々。妻には大変な心労をお掛けしたとお詫び申しあげるとともに、言葉には代えがたい感謝をしております。

さて、退職後の30年の空白を経た家族との生活について。

「ピフオー」長男が5歳、二男が3歳からの単身赴任が、

・・・なんということでしょう！「アフター」長男が結婚しました。可愛い孫娘ができました。

現在の私の日常は、愛犬との散歩がてらに逢う花や鳥、虫がとても新鮮に見え、はからずもこのように美しいものがあつたかと思ひ入るところです。

これからは、家族を一番に考えるところに、二番としてはこれまでの経験が少しでも社会に役立てるように生きていきたいと思ひます。



電友会さくらんぼ
會田 小一(平24)

私も退職してから丸2年が過ぎ、3年目をむかえています。

当初は、毎日が日曜日で戸惑いながらの生活でしたが、ようやく生活にもなれてきました。

私が、いま注意している事は、健康です。14年前に心房細動という心臓病になって現在も薬の投与を続けていますが、主治医の先生からは、とにかく痩せなさいと言ふことで、退職を機に、ダイエットに挑戦しました。

週に4、5日にスイミングスクールに通い、その中のジムでランニングマシンでジョギングしたりスタジオでバーベルをあげたり曲に合わせて身体を動かしたりして、3時間程度過ごした結果、今の体重は、標準体重より2kg、3kg少なくなり、中性脂肪やコレステロールが下がり、心臓病以外は、健康体になりました。如何に、健康は予防が大切か痛感しています。

その他に、畑の土を相手に野菜作りや少しばかりのさくらんぼ作りを楽しんでいます。さくらんぼシーズンには、ぜひ寒河江に来て下さい、会う機会を楽しみにしています。



村山クラブ
佐藤 芳孝(平13)

少し早目の52歳で退職、紆余曲折の後に、縁あって電報配達業務に従事。その後、薬師ビルで局舎維持配達業務の手伝いをさせていただけき今日に至っています。そのかたわら、老化防止、健康増進を念頭に夫婦で取り組んでいるのがおさまりの素人農業。畑に空きを作らないように苗を植え収穫してみれば、なす30本は2人きりの生活には多すぎた等々、笑い話の類がいろいろあります。

また、グラウンドG・パークG・ゴルフとスポーツサークルに参加し、体を動かすように心がけています。なかでもゴルフは現役時から続けているのに、いまだ多ハンデ、一打辺り単価が超安価のレベルを脱しておりません。このような現況ですが、健康に留意しこれからも仲間の皆さんとの交流を大切に、ゆったり過ごして行ければと思っています。



鶴岡電友会
神部 誠(平20)

退職後は、のんびり過ごそうと考えていた師走の夜、携帯電話が鳴った。次女からだった。「お母さんが事故で病院に運ばれた」とのこと、よく聞くと暴走自転車と衝突し、大腿骨骨折、肩脱臼、ここから始まった我家の災難。車先から車で帰る途中スリップし橋の欄干に激突し車大破するが、ケガなしで幸い。年明け長女出産するが、早産のため、妻、娘、孫と同じ病院に入院となる。3月に退職し、次女が産する。胆のう結石が動き緊急手術、胆のう癌の宣告を受ける。その後鼻に腫瘍がみつきり摘出手術をうけることになる。この流れが我家での酒席の際必ず話題になる。

当時生まれた孫も一年生と、保育園の年長となり、元気で通学、通園しています。数ヶ所の医療機関に通いながら、健康に気をつけて孫と楽しく遊ぶことが私の仕事です。



電友会おいたま
山口 昌美(平17)

山形県南部の高島町に通算12回
目の引越しをして24年が過ぎ「定
住」したと思っています。父の仕
事の関係で幼い頃から引越しをし
たので「定住」という言葉に憧れ
ていました。中学は山形県北部の
真室川、萩野、新庄中学校への転
校も級友に恵まれ苦になりませ
んでしたが、父は私の高校が終
るまではと転勤を断っていたと後
母から聞きました。引越す度に級
友、同僚、寮生(宮城県古川の第
一寮、仙台の新田寮)との出会い
に感謝しています。会報で知人の
名前を見つけると懐かしさがこ
み上げてきます。退職後は、「定住
の恩返し」と考え、請われるまま
に町内会の役を引受け、最後まで
断り続けた老人会の役を今年度か
ら楽しんでいきます。老人会での話
「最後にお墓に引越し、永住の地
になる」一同、本当だと笑い合
いました。



千秋クラブ
木村 辰雄(平18)

NTT東日本を退職しテルウェ
ル東日本に勤務して8年になりま
した。幸いにも秋田市の自宅から
通勤できる環境にも恵まれ、地元
秋田を満喫している今日この頃で
す。その様子を紹介します。1、
と素人のまま野菜栽培が5年続
いています。2、地元秋田の歴史、
文化、祭り、自然等に触れ続
けています。3、プロバスケ
ットボールbjリーグの秋田NHの熱
いブラスターとして4年間応援し
てきて今年度は念願のファイナルズ
(東京・有明)進出が決まりました。
県内26試合とプレーオフ4試合に
駆けつけ5月末の有明にも馳せ参
じ勝利の後押しをする予定です。
秋田は子供の学力は優れている
と言われている一方、少子高齢化
や人口減少等で悲観的な話題に事
欠かせない昨今ですが、少しでも
地元秋田の良さを自ら見つけ動い
ていきたいと思っています。



秋田県北地区電友会
工藤 憲一(平14)

何んか気象変動の激しい中にも
どうやら周りの自然を見れば草木
が例年と同じく桜が咲き、木々は
芽を吹き、田畑の耕作も同じよう
に動き始めているところにホッと
してさすが皆さんいかがお過ごし
でしょうか。

小生も古希を過ぎ、体の変調も
あって歳を感じることになりまし
た。早寝はともかく起床が遅く、
体の動きが一段と鈍くなって特
感じております。会報やライフア
シストと送られるものに目を通し
て会員等の活躍に一喜一憂してお
ります。昨年は想定外の災害で田
んぼが全滅し、今年の作付けが出
来ない状況におかれしました。収穫
を絶たれることは、専業農家にあ
らずとも稲穂の輝きを見られない
寂しさも辛いものであります。退
職後の楽しみの一つでも失う寂し
さから脱却するよう精進して、元
気に前を見て進みたいと心かけて
いるところであります。



秋田県南地区電友会
富岡 謙(平11)

夏まで融けるか?と思った大雪
も、4月に入つての暖かさで呆気
なく融け、桜の蕾も私の予想に反
し急に開花した。例年、花見前に
春山登山をするのだが、今年は雪
困いの取り外し、木々の枝切り等
作業が遅れ、登山できず残念で
あった。この頃は冬眠明けの熊を
発見できる最良の時期で、熊の付
場を知る為にも重要な山行きでも
ある。この登山ができなかつたス
トレス解消に、13ヶのザックを出
し、思い出に浸りながら汚れを落
とし、濡れタオルで拭き、保革油
を塗り、古いカレンダーを丸めて
詰め、型を整え、ビニールで包み
窓の上のナゲシに吊り下げた。大
中小赤青黄など並ぶと眺めても楽
しく満足している。ザックはまだ
あるので、今後アスプレー方法を
スポーツ店で注視し、参考にして
飾りたいと思っている。

会友コーナー

文芸欄



俳句

福島地区電友会

関戸 武

木曾谷の深さの見ゆぬ霧の音
木曾川の蛇行まぶしむ秋夕焼
秋風や木曾の棧谷の底

加藤 良栄

花と会ひ余命ひとつを頂けり
葉桜となりて瀬音の荒々し
フラココにのりて息吸う花吹雪

八戸地区電友会

佐々木敦子

西風に裏返へりたるどんどの火
爨るるや電光板の文字にじむ
蝦夷の地の日差しゆたかに花萱草

坂上エソ子

秋空を写して静かに馬淵川
秋の月MRIの脳のごと
尖閣の話題などして菊日和

電友会おいたま

遠藤 三男

秋桜乱れしまゝに活けにけり
吾妻嶺はくれないに暮れ谷紅葉
久濶の話がはずむ夜長かな

五ツ橋クラブ俳句同好会

青山 誠一

体内に川があるなり春深し
流水は海の嘆きよ夏の月
鳥を出し落花一片沖めざす

赤木 善男

血圧も正常範囲流れ星
野菊差し月命日の墓参り
吾が影に老いを感じぬ秋の暮

斎 仁二郎

遠景に仙台湾を夏座敷
この辺り津波の跡や草茂る
打ち水や居るはずの無き妻の声

佐々木栄一

春愁の深きに耐えて餘生なほ
鞦韆に子等姿なく団地老ゆ
老いてなほ夢追う夜の明易く

菅原 了二

山桜桃酒に漬けたる日付貼る
昼寝して老いの生気を戻しけり
紫陽花の雨の重みに乱れけり

富樫 瞭

大鷲や客三人の五能線
出発の乙女に優し春の雨
夏空や少年の日の日記帳

川柳

五橋川柳会会員作品抄

富樫 辰夫

飲むまでは無口な人と想ってた
TPP 録音高く響かせる
花一輪一輪だけの癒しかな

藤井 博道

万歩計出番ですよと木の芽立ち
雪囲い取れて老梅天に向く
釣り上手山の緑もびくに入れ

高橋 忠一

老春を少し照れてる赤いシャツ
昭和史を生きて果報に辿り着く
廃校のさくら咲いたと来るたより

桜庭兼四郎

尖閣へ大事小事の波を立て
鉢植えの緑育む水の精
旅立ちの歌声響く仮校舎

齋藤 弘一

新聞をたたんで今日に向き直り
出遅れた風船を待つ風がある
一言居子誰も求めていないけど

小柳 芳雄

脳の皺顔へ静かに移動中
よるめきはせぬが一目置く段差
寝たきりの妻に紅さすりハピリ日

金澤 克人

海みえる町にとどまる覚悟する
融けるまでお傍に居たい雪うさぎ
さくら散る美学の浮かぶ花筏

石館 一

癒される母と妻との笑い声
悩み事妻のいびきが消してゆく
新緑の濃くなる音を聞いている

赤木 邦夫

大地震一本残った桜の木
思いい出に妻と二人の旅日記
脇役の演技が主役盛り立てる

短歌

電友会おいたま

柿間 茂

先代の遺せる業を顕彰し
伊勢神宮の建材拝受

神宮より御下賜たまわる用材は

本殿御台と拝殿手摺りに

もろ人の心つどいて三年余

社殿新たに遷座まします

詩

野球の頂点

盛岡電友会 堀根麟太郎

青バットの天下

安打製造機張本のいた

東急フライヤーズ 現日ハム

野武士チームといわれ

神様 仏様 稲尾様

鉄腕稲尾投手のいた西鉄ライオンズ

現埼玉西武

幸駄天福本天才イチローを生んだ

阪急ブレーブス 現オリックス

名捕手野村好投手杉浦を生んだ

南海ホークス 現ソフトバンク

水爆打線マサカリ投法

村田兆治のいたロッテオリオンズ

現千葉ロッテ

いてまえ打線速球派投手の

鈴木啓示のいた近鉄バッハローズ

その近鉄が姿を消し

かわりに生まれた

東北楽天ゴールデンイーグルス

神様 仏様 おかげさまの

大投手田中将大を生んだ東北楽天

その楽天が苦節九年

野球の日本一に輝いた

星野仙一監督も初めて日本一の監督になった

やっただぜ楽天

やっただぜ星野

野球はパリーグ

元氣と幸せを与えてくれた楽天イーグルスよ

東北の復興と連覇への道を

更に更に突き進め

(本名 堀根 英司)

随想



野球人の墓石

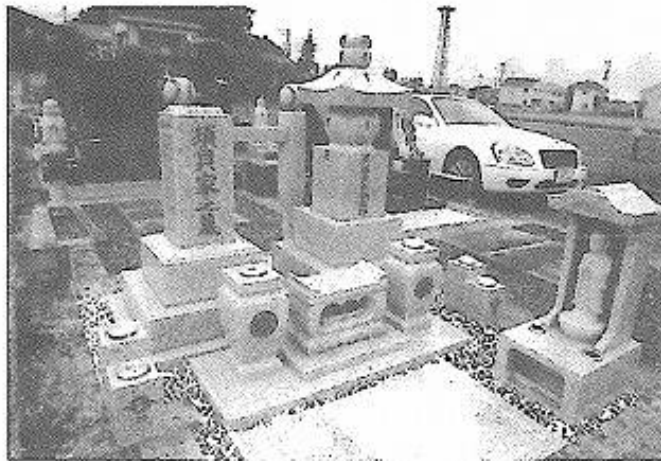


仙南OB会 千葉 定一

平成25年2月に亡くなられた元電々東北野球部OBの須貝昭二氏の建立並びに納骨が昨年9月8日に営われました。

彼の野球人としての活躍はみなさんもご存知のことと思います。割愛します。ご子息の賀津雄君も東北学院大・宮城日産で野球で活躍されました。写真の様な立派な「野球人の墓石」は初めてお目にかかりました。聞くところによると元電々東北の雁部監督のお墓には石造りのキャッチャーミットとボールが飾つてあるそうですが、墓石の踏み台は原寸台のホームベース、花立ては電々マーク入りの彼の背番号26番入り、うしろの塔婆立てはバットとボール。(抜い目も原寸台でござんである)野球人はぜひ一見して下さい。

野球と言えば今売れっ子作家の池井戸潤



お寺の名前と住所・善徳寺・太白区四朗丸字弁天 37

の「シャイロックの子供達」で読んだことですが野球人なら「キンセラ」の「野球引込線」(現在は絶版中、古本屋か、図書館で探して見て下さい)へ小生も読んでいない!甲子園の県予選でエラーで負けた白球人の話。小生も中、高で野球をやっておりましたが「野球引込線」だったかも?今は「ゴルフ引込線」かな?

最後に昨年の世界少年野球大会で優勝した日本代表監督大野倫さんの言。「うまくなるばかりだけではダメ。野球を通じて、人として大切なものを学んでほしい」

ふれあい電話



電友委員会 大塚美和子

春の光を窓辺に受けて、今年もNTTいきいきネットのふれあい電話のボタンを押す。「もしもし、お元気ですか。NTTいきいきネットのふれあい電話です。1年ぶりの「コンニチワ」ですよ」
「おう元気だよ。何とかそれなりに生きとつたよ。あんたも元気そうだね」

私がこのふれあい電話を担当して何年になるだろう。毎年たった1度の電話、殆んど同じ人に同じような電話をかけているが、未だにお顔も知らない方、現職時代はどの部門で何の仕事をしていたかもわからない方と、今では声だけで接つてお友だちになっている。初めての時は怪訝に思われたり、びっくりされたり、迷惑そうに話も進まなかったりだったが、何年かの間に仲間意識が出て、昔のことや家族のこと、自分の健康など話が出るようになった。まして長い歳月を一緒に戦場で日夜を共にした旧友となれば、あの人この人の安否や楽しかった思い出、子や孫の現状から果ては葬儀や墓のことまで話は時を

忘れて延々と続いた。

お互いに年を重ね、この間に亡くなられた方、病気になられた方、施設に入居された方などなど、それぞれの事情でお別れしたことがあるのは致し方ないことだが残念だった。

ほのぼのとしたふれあい電話、お互いに励まし合いパワーを分けあったふれあい電話。いきいきネット活動の中で私が最も人間らしい心と言葉を感じられた一刻ではなかったろうか。活動が続けられないことは残念だが、気がついてみれば私も84歳。いきいきネットのおかげで楽しい思い出が沢山できた。13年間ありがとうございました。

「あれから40年」同志が集結

福島地区電友会 小林 耕喜

昭和48年2月の原町局。全国的にも前例のない管理者総入替人事のあったあのときから今年で早40年になった。

その時、原町局に発令された管理者は、角田博局長、紺野倫男次長はじめ総員11名、同規模局は大旨の9名であったことから体制強化の程がうかがえる。

時代背景を見ると、総理大臣は田中角栄、大臣時代からの日本列島改造論で、東北道は部分開通が進み、青函トンネルと東北上越新幹線が着工された直後だった。

政治面では、角栄訪中で周恩来と「小異を捨て、大同につく」とする日中国交回復。沖縄返還で沖縄県の誕生。ベトナム和平調印。社会的には、浅間山荘事件。公害問題の原点で420年の歴史をもつ足尾銅山の閉山。水俣病判決でチソソの全面敗訴。と激動の時代であった。

社内的には「全国どこでもすぐつく電話、すぐつながる電話」をフレーズとする積滞解消と全国自即化を掲げた第5次5ヶ年計画が昭和48年度から始動し、毎日どこかで改式があった。同一MA区域は0を廻さない接続方式の広域時分制となったのもこの頃である。

そんな時代背景から組合運動も活発で、社会党の全盛時代でもあったが、国民のほとんどが自分は中流階級の上と思いはじめた頃でもあった。

組合員の考え方も巾広く存在し、人殺し合理化粉砕などのスローガンを掲げた。とてつもない大きな立看板や旗が局前に林立する光景が原町にあった。

料金請求書の発行が3ヵ月遅れ、よって通

停はできない状況が続き、収納管理も不能状態だった。故障修理は、いつになるか分からない。農集も多かったことから応答は2分、3分超が常態的で、仿かないことが労働運動と錯覚していた集団がそこにあった。

そんな局情の立て直しに奮闘した同志が異動で離れ離れになった後も、原町戦友会と称し定例的に交流を重ね今日に至っている。

前回は、あの3・11の前年に相馬市磯部の海端の清風荘で集い、杯を交わした。

今回は、戦友会原点の地である原町の森の湯に、角田局長はじめ12名が集結し、あの時代と、この40年を追想し旧交を温めた。

宴の前に全員で、かつての局舎を足で視察した。40年前のあのときの局舎は、機械棟だけが交換所として、LMCは今はなく、新局も人影はなく門扉が閉ざしたままだった。

かつては、30名近くいた戦友も半数が故人となり、場合によっては、これが最後の集いになるのではと少々寂しい声も出たが、思い出話しが尽きず盛會裡に終始した。

話題の中心は何といっても、あのとき同志が心を1つにしておこした諸行動で、40年を経た今日「範は歴史にあり」を全員で実感、共鳴し散会した。

趣味に生きる楽しい老後

書で見る鈴木健二語録集の出版

青森県友会 上口 清次

NTT在職中に趣味として始めた書道も、いつの間にか50年になりました。

定年後は、生きがいとして長年培ってきた書の知識や技能を生かして、あおもり県民カレッジや地域の書道サークル等でボランティア講師をしております。

平成9年、NHKのアナウンサーとして活躍された鈴木健二さんが社会人サークル「あおもり塾」を創設され、自ら塾長として活動されるという幸運に恵まれました。

早速、あおもり塾でご指導いただきましたが鈴木先生の人間の器の大きさと、そしてその知識の豊富さに驚かされました。

受講の都度「人のために生きてこそ人」

「感動なしに人生はあり得ない」といった心に染みる数々の言葉を書留めてきました。その後、塾の講座だけでなく先生の講演や著書からも数多くの名言を集め、色紙等に揮毫することにしました。

これ等の作品は、毎年青森県主催の「生涯

学習フェア」や地域の文化祭等で発表してまいりました。年月の経つのは早いもので、気がついたら発表した作品が大小合わせて百点をこえるまでになっていました。これを知った周囲の人達から、こんな素晴らしい作品を青森県の片隅に眠らせておくのは勿体ない、ネットとか出版でもして全国に発信してはどうかという声が大きくなってきました。

平成25年は、ちょうど喜寿の年でもあり、また書を読んで50年という節目の年でもありました。それで上京した折、先生に出版についてご相談したところ「了承いただくとともに巻頭言までいただけることになりました。このような経緯のもとに、このたび作品40点を選んで出版させていただきます。

書といえは一般の人から、見てもわからない、読めないという声がよく聞かれますので十分に配慮し、誰れもが簡単に読めて先生のすばらしい言葉に感動してもらえるよう書いております。

機会がありましたら、ぜひ一人でも多くの方に「心の友」として身近にお願いいただければ幸いです。

(注) お近くの書店でご注文できます。その際は、次の項目をお伝え下さい。

①書名 「こころに言葉の種を蒔く」

|| 書で見る鈴木健二語録 ||

②著者 上口叙信

③出版社 文芸社(定価1365円)



元NHKアナウンサーで「あおもり塾」の創設者鈴木健二さんと

ぶらり街へ



千秋クラブ 成田 隆平

特に用事はないが気晴らしにぶらり、街へ出たくなることもある。あらかじめ、新聞か何かで見、行事など知ると、そこを目当てにするが、それも行事があればの話で何もないと、ないで、のんびり足の向くままとことなく歩く。かえってこのほうが、案外、予定してたより見るものも多く、時間もかかるがこ

れで、けっこう楽しい。それに、久しぶりに出ると半年前に見た風景ががらりと変わって、いることもある。へえー変わったな、とその速さになつてしまふ。子供が珍しいものでも見るように足をとめて見たりする。ゆつくり歩いて来たとき、信号が青から赤になつた。歩いて来た人は当然、そこでびたりと止まり、青になるのを待つ。4、5人はいたろうか。そんなときだった。後ろからスタスタと渡つて向かい側に行つた男がいた。待っていた人達はこれを見てあせんとすると同時に、青になつたのかと信号を見ると、まだ、赤である。男は、背の高い、外国人であった。あまりにも、堂々と、しかも当然のように行つたものだからだれもが信号へ目を向け、確認したほどである。

よくあるのは、青から黄に変わろうとしたとき、さらに、まだ赤でなく、黄に変わりはじめたときに、あわてて小走りに渡ることあるものの、このように、完全に赤であるのに小走りでもなく、普通の歩き方で、まるで青であるかのように渡つて行つてしまったのには、驚いてしまった。たしかに、そのとき車も来なかつたものの全く信号は眼中にないみたいであった。ルールとはなんだろう。車が来ないとき、安全と見て渡つて行く。逆に車が来なくとも、たとえ安全であろうと、ルールを守つて渡らない。社会には、ルールが必ずである。たぶん、信号待ちの人達もそう思ったに違いない。歩いて時計を見ると、時間はたっぷりある。また歩く。ある建物の入り口のところで目についたのが写真展であった。パンフによると、なんと、応募者数413で点数が1760、1人で数点出している人がかなりいる。それもそのはずで、東北地区公募展とあるからけっこう広い場所をびつしよりに占めていて見事な写真展である。

入賞、入選併せて、300余、これを全部見て回るにも、それなりの時間がかかりそうだ。しかも、入賞、入選の付せんがついていると、そこで立ち止り、見る。見るがしかし、正直なところ、この写真のどこがいいのか、なんで入賞、入選になつたのか、さっぱり分からないまま、次へ移動する。それでいて、なんとなく、満足した気持ちになるのは、行くあてのない、急ぐことのない時間のせいだろうか。それとも、見て回つた人のように、分かつたふりをしてのことか。帰りのあのときの信号は、直前に赤になつた。

玉手箱

秋田県北地区電友会 工藤 憲一

そう、童謡歌でお馴染みの「浦島太郎」だ。龍宮城から帰つたら元、居た家も村もなく、行きあう人々は顔も知らない人ばかり、土産の「玉手箱」を開けたらたちまちおじいさんに・・・こんな歌を思い出すに至る、今世に生きる自分はこの浦島太郎みたいな感じがしないわけでもない。

世の中は変わつてしまった。文明の進化か、取り分け科学の進歩が急速に文化を進化させている。

思い出すのはNTTが高度情報化社会を掲げた時、あれから何年経つたか。情報社会は「通信」手段の変化だけにとどまらず夢にも無いような世界に変わってしまった。PC(パソコン)の普及が回転を速めた。

携帯電話さえ使いこなせない?こんなにも様変わりした世の中の動きについていくことも大変である。少子高齢化で集落の高齢化が目立つ。気が付いたら当地区電友会も創立20年を過ぎ25年に近い、自分も然り、諸先輩も高齢化して体調も思わしくない方が続出して、

会の存続さえ危惧を感じる。先ほどの「浦島太郎」を歌った頃は、時代背景から出たろうか？変革の時だったろうか？作詞・作家不詳、時も分からないが、なんかそんな気がする。周りの様子の変化で全く別世界に飛び込んだような気がするのは自分だけだろうか？いつの間に年を経たのか、それさえ気づかないままに生きてきたことに気付いて、鏡で自分の顔をじっくり覗くこの頃であります。世の中の不要物にならないように気概を捨てずに頑張つて活きたい。

i p s細胞またはSTAP細胞かどうか知らないが、細胞の再生で「死」が無い世の中に、また2030年には人類が火星に踏み出すとも云っている。そんな夢の実現を楽しみに、生きて行こうじゃありませんか？

知りたいことばかり

千秋クラブ 工藤 敏夫

初夏の頃山形の知人の紹介で鶴岡の旧家を訪ねた。訪問先の主は「客人へのご馳走に筒を掘りに行き間もなく帰ります」とのことだった。主が帰る迄庭を見せてもらう。大き

な石組みの間から可憐な花が咲いており滝がある池に錦鯉がゆったりと泳ぎ回っていた。

藤棚には一米近くもある藤の房が垂れて、見事な眺めに知人らとこんな大きい藤は始めて見たとうなづき合った。

間もなく主が筒の入った籠を背に帰ってきた。回り廊下のある庭のよく見える日本間に通された。床の間は川端成揮毫の掛軸がかけられており、主は床の間の前の小机の引出しから巻物を取り出してテーブルの上にひろげた。それは川端先生からの手紙を表装したものだ。そのいきさつは、ノーベル賞を受賞した時に行なった記念講演の中で藤の花にかかわる話をされ、後日山形の鶴岡に立派な藤棚があることを知り是非訪れたいとの内容だった。

しかしその後川端先生が急逝され大変残念なことでしたと話してた。

主からのお話しを聞いたのがきっかけで、その記念講演の演題が「美しい日本の私」であることを知り秋田市の図書館でその題名の文章を探し見つけることができた。その中に「伊勢物語」に「なさけある人にて、かめに花をさせり。その花のなかに、あやしき藤の花ありけり。花のしなひ、三尺六寸ばかりなむありける。という在原行平が客を招くのに

花を生けた話があります。

花房が三尺六寸も垂れた藤とは、いかにもあやしくほんとうかと疑うほどですが私はこの藤の花に平安文化の象徴を感じることがあります。・・・略

およそ千年前に華麗な平安文化を生み、日本の美を確立したのは、あやしき藤の花が咲いたのに似た異様な奇蹟とも思われます。とあり鶴岡で見た藤の花を思い重ね、読み、川端先生が、みちのくの藤を鑑賞しようとした思いが伝わってきた。

「藤の花と川端康成」、「伊勢物語と在原行平」のことなど今迄知らなかったことを知ることができたのも、鶴岡の藤や図書館のおかげ、と藤の花が咲く頃になると思い出す。

この世は知りたいことばかり、だからこの年になっても少々忙しい。死ぬまで退屈しないだろうと思っっている毎日です。

文知摺り観音

電友あさか会 仲島 功

福島市に転勤した時、名所旧跡なら「文知摺り観音」と勧められました。伊勢物語や古

今集や小倉百人一首にも載って《陸奥の、しのぶもじずり、誰ゆいに、乱れそめにし、我ならなくに》

歌人は河原左大臣 源 融である。歌の意味は信夫文知摺り（信夫の里で織られた文字のように乱れ染模様）が、心乱すのは私のせいではなく貴方のせいなのです。と云う恋歌である。

場所は国道115号沿いにある。訪ねて行くと、小道に漂う静けさとしっとり濡れた文知摺り石が、恋のはかなさを感じさせるのである。さて、不思議に思うのは歌人が①河原左大臣②源氏という事である。

①京の都を流れる鴨川高瀬川の近くに邸宅があったことから河原のと伝わっている。

②歌人源融は、嵯峨天皇の子で臣籍降下により源氏を称している。

私が興味をもつのは、当時の京の都を揺るがした「応天門炎上事件」です。

「伴大納言絵巻」で見られるように、放火犯人と濡れ衣を着せられたのは、左大臣源信であった。源信は、源融の兄である。

兄源信は、あまりの悔しさに出仕をやめ、数年にして左大臣の地位は弟源融に回った。

嵯峨源氏の子孫は少なく、鬼退治で有名な渡辺綱ぐらいであると思う。

それに引き換え、清和源氏の子孫は繁栄し源頼光や源頼朝などを輩出している。

さて、応天門の放火犯人は罪に陥れようとした大納言伴善男であった。

大納言の地位から右大臣の地位を狙ったものと思われます。

「伴大納言絵巻」から、裁いたのは時の天皇清和と人臣にして最初の太政大臣藤原良房であった。

この大手門事件を機に、古代天皇の武官であった名門大伴（伴氏に改称）氏は衰退した。

ここから、藤原良房を初めとして藤原道長を頂点とする藤原摂関家が台頭してきたと云う

聖徳太子の例にあるよう、摂政関白は皇族でしか成りえなかつたのである。

ここに、この大手門事件は藤原氏の陰謀ではなかつたかとの説がある。

さてさて、藤原道長は源氏物語の主人公源氏のモデルとも言われているが、嵯峨源氏の河原左大臣源融こそが実在モデルと考

えます。

何故なら、臣籍降下の源氏を呼称し教養溢れる歌人としての振る舞いは源氏物語の源氏

そのものである。

また、宇治の平等院は彼の別荘であり、その後藤原道長や子の頼通のものとなった。

信夫の里に中納言源融は来たとなつてはいるが旅枕ではなかつたかと思つてゐる。

道端の雑音（その5）

五ッ橋クラブ 若松 芳陽

後輩の訃報に悲しむ

私も81歳となり、先輩諸氏をお見送りするのは悲しくとも仕方のないことと思つてゐるが、後輩を見送るのは何とも辛い思いがする。

某日、後輩である某君の突然の訃報に接し強いショックを受けた。それもそのはず、その彼との共通項は、同郷（いわき市）、同窓（磐城高）そしてNTT卒ということ。

その彼には、自分が正しいと思つたら自分の考えを絶対に曲げない頑固さがあつた。しかし、彼の話し方には説得力があり、私ばかりでなく周囲も「彼のいうことなら」と一目置いて納得してゐた。また、頑固さとは反面、高校の同窓会、電友会の総会などで、呑みながらお互い愚痴を含めた世間話し、将来の夢とか他愛のない話しではあつたが、物静かに話す心優しさがあつた。先輩後輩という関係で心置きなく話せるという楽しみがあつた。

彼は、NTT卒業後、関連会社の社長も立派に卒業し、その後は趣味を楽しみながら悠々自適な生活を過ごしているという。年賀状のやりとりのみ。(お互いご無沙汰をしていた。年賀状のやりとりのみ。)

大黒柱である彼を亡くした奥様、お子息様達にお悔やみの言葉も出ない。

その彼の名は、故芳賀弘君(享年72歳)です。思い出の多かった後輩、芳賀君のご冥福を祈ります。(合掌)

私も歳に不足のない今、次ぎの番は私かななどと思いつつ...

お世話になった先輩・後輩・同僚とお別れする悲しみに会わなければならぬだろうが、願わくば、年齢順になって欲しい。後輩との別れは本当に辛い。

皆さん、健康に気をつけ一日一日を楽しく過ごしましょう。

・俗語・・・「ねずみ捕り」って?

「ねずみ捕り」と聞けば思い出すのは、「ねずみ捕りか」「ねずみ捕りだんご」そして「猫」などであるが、今は違う。

いつ頃から、俗語として世間に広まったのかは知らないが、警察官が思いも寄らぬところに隠れ、待ち構え、車運転のスピード違反等を取り締まることを「ねずみ捕り」と言っ

ている。

違反であるから、捕まるのは仕方がないとしても隠れてまで・・・と思う。

聞くところによると「ねずみ捕り」取締り強化月間と称して署を挙げて摘発を競っているとか・・・。

違反による事故であっても、悲劇的な大事故を起してからでは遅い。

むしろ、スピードを出したくなるような場所に警察官が「スピードを出すな」などのプラカードを持つて立ち、違反そして事故の未然防止に努めるべきではないかと思う。

ドライバー間で「○○付近、ただ今、大工事中」と連絡したら「ねずみ捕り」の合図とすること。また、対向車同志「ライト」を点滅し合い「ねずみ捕り」を確認し合うとのこと。知恵比べではないか。

世間(警察署)で言う「安全、安心で平和な社会」というのは、「事故を未然に防止すること」「すべての事故を起さないこと」が世間の願いではないかと思うが?

街道の魅力



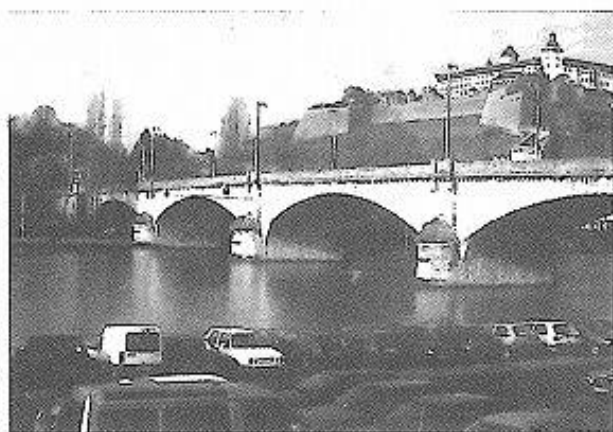
五ッ橋クラブ 齋藤 光功

1、ロマンティック街道とヴュルツブルク

ドイツ人は旅行好きな国民である。国内にはロマンティック街道やメルヘン街道、ワイン街道、ホップ街道、バロック街道、古城街道、アルペン街道など歴史・文化遺産や景勝地を巡る観光ネットワークが構築されている。各街道には地域の名産品や工芸品、歴史的建造物が継承されている。ロマンティック街道は1950年に地域振興策として街道沿いの町々が協会を作り街道の呼び名が決められた。かつてイタリアへの通商路とし栄えた中世の真珠の町を巡り旅人は非日常の世界へ誘う。ロマンティック街道の起点はドイツ北部のヴュルツブルクで人口は約13万人。終点是最南端の町フュッセンで街道の長さは約350キロメートルである。

ライン川沿いのマリエンベルク城塞は歴代司教が1253年(建長)から1719年(享保)まで住み続け、当時は司教は聖職者と領主を兼ねていた。商人はライン川やドナウ川、ライン川の水運で近隣諸国とワインの取引

で莫大な資産を得て、まちの自治権を求めたため小高い丘に城塞を築き平穏が保たれた。



メイン川の水運を眺み、石橋の前方はマリエンベルク城塞が見える。

2、ヴェルツブルク大学と医師シーボルト

ヴェルツブルク大学は1582年(天正)の創設で歴史と伝統を誇り、第1回ノーベル物理学賞のヴィルヘルム・コンラート・レントゲン(1845(弘化)〜1923)や日本に西洋医学を広めたフリーリップ・フランツ・フォン・シーボルト(1796(寛政)〜1866(慶応))等の才媛を輩出した。

シーボルトは1720年(享保)にヴェルツブルク大学卒業、ドクトルの称号を得て長崎オランダ商館の医師として1723年に着任、徳川幕府1639年(寛永)鎖国令を出

し、海外に開かれた港は長崎のみであった。

当時、日本医学は漢方医が主流で治療の限界もあり、蘭方医の治療効果に期待し長崎鳴滝に塾を開き蘭方医学を日本の若者に教えた。

3、シーボルトの江戸参府と日本研究

オランダ国は徳川幕府の「通商免許」のお礼に西洋の好物を献上、将軍への拝謁を江戸参府と呼ばれた。参府は1609年から1850年まで116回を教え当時、江戸往復の日数は67日から143日ほど要した。

シーボルトは1826年2月15日、スチューレル商館長に同行し総数57名で長崎出島を出発、献上品は西欧の生活用品や書籍、気圧計や温度計、寒暖計、顕微鏡や薬品、外科機器、フォルトピアノなどが含まれていた。

江戸参府の往来は日本研究の調査・収集を行い、長崎出島に7月7日着、143日を要した。途中、鈴鹿山の坂ノ下宿場で採集した「サンショウウオ」をオランダ・ライデン博物館に送り、10年後に約80cmに成長し博物館の名を高めた。植物採集も行われ新種はヨーロッパの植物園や宮廷などに送られ東洋の神秘が開かれた。

4、シーボルトとロマンチック街道

シーボルトは1828年(文政)の帰国時に国禁の「徳川将軍家の葵の紋服」や「日本

沿海興地区」などの所持品が見つかり、シーボルト事件に発展したため1人で帰国後、1866年(慶応)にミュヘンにて70歳で死亡した。

シーボルトはロマンティック街道の起点であるヴェルツブルクの生まれであるが、ドイツから陸路と海路で日本にわたり、長崎では日本人「楠本お滝」とのロマンスが実り、子供「伊福」も授かり、長崎出島がロマンティック街道の本来の終着駅ではないだろうか。



五ツ橋クラブ 小坂 仁

晩鐘・落ち穂拾い・日傘の女に巡り逢う

モスクワまわりのバリ行きは遠かった。でもミレーの「晩鐘」「落ち穂拾い」に逢えると思うと飛行機の中は眠れなかった。早起きしてオルセー美術館に急いだ。8時前というのに30番目、人々の列が続く。「晩鐘」の前にたたずむ。観客が多いのに物音ひとつもない。すぐれた芸術は人間を清め、観る人をして敬虔な祈りと深い感動を与えてくれるのか。暮れなずむ田園風景。画面の右遠くに教会が

かすんで見える。1日の仕事が終わりに神へ感謝を捧げる農民夫婦の姿。祈りの情景、静かなる感動。波濤万里の旅、パリに来ると異國なのに心がなごむから不思議な心理である。亡妻が残してくれた「晩鐘」の絵を思いだす。教会の鐘の音がら聞えてくる・・・。

「晩鐘」は八十路を越えた終末の人生に安らぎを与え、日々を支える鎮魂の絵である。

となりの「落ち穂拾い」を観る。幼き頃の郷愁で胸が痛む。辛かった稲束運び。荷車からこぼれる落ち穂を拾いながら家路に急いだ貧しい会津の少年時代。疲れはてて「藁・わらたば」の中にねむりこんだ日々を思いだす。

労働に生きる農民をいたわり、働く人達に限りなく愛情をそそぐミレーの姿に惹かれてゆくのをどうすることもできない。彼の絵には観る人の心を放さない不思議な魂がある。会津の貧しい農民の子に生まれた故か、ミレーの絵に逢うたびに切なく哀しい思いをする。亡妻はしきりにミレーの里を訪ねたいと言っていた。落ち穂は神の恵み、神の恵みをいただくことは神に命を捧げることあり、信仰に生きる証（あかし）であると思う。

念願の「日傘の女」の絵を観る。全身が釘付けになり涙があふれそうになった。どうしても「日傘の女」に逢いたかった。夏の光が

降りそそぐ草原。パラソルを片手にたたずむ白いドレスの女。透き通るような美しい女性。いと美しい女性。この感動はどこからくるのか。吹き抜ける風に草はそよぎ首に巻かれたスカートが揺れる。今にも歩きだそうとしている姿。しかしどうしてなのか、顔が見えない。やさしい顔が描かれていない。新婚時代、最愛の妻カミーユは売れない画家モネを支え、極貧の生活が続いた。しかしその後、カミーユは倒れ突然天に召されてしまう。しかしモネは病気の妻のそばでも絵筆を放さなかった。孤独に耐えながら「日傘の女」を描きあげた。それにしても女の顔が描かれていないのは何故なのか・・・。美しい顔を描かないことでモネは亡き妻への限りない愛情を表現したかったのだと伝わる。信じがたい。でもいとしい妻カミーユは細身の姿、清楚で美しい女性であった。そう思いながら「日傘の女」を見つめると彼女への思いが募るのを抑えきれない。秀れた芸術が放つ不思議な感動である。多くの観客は誰もが自分をみつめ、絵を見つめ、その場を離れる人は無かった。

◆随想コーナーへの投稿について

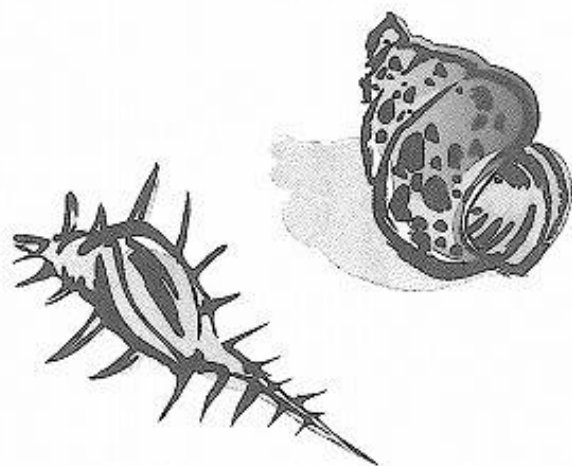
随想コーナーへの投稿については誌面の都合上、左記内容にご協力をお願いいたします。

○掲載・・・年1回

ただし、投稿数が多い場合は次号に持越とさせていただく場合があります。

○字数・・・1200字以内厳守

○次回締切り・・・平成26年10月20日厳守



◎表紙写真の紹介

高山植物の女王「コマクサ」／蔵王山

山形と宮城にまたがる名峰蔵王山（日本百名山）のお釜周辺は火山地形のガレ場で、その厳しい環境に自生している「コマクサ」は高山植物の女王、高嶺の花と言われております。

見ごろは7月頃ですが、開花期が短いので蔵王を背景にその美しい姿を写真に収めるのは難しく、毎年何度も通っております。

写真提供／霞城クラブ 鏡 正美

●●●編集後記●●●

◆今回の75号は従来の編集に戻り、各地区やサークル、会員の皆さまの活動模様や消息等を中心に編集致しました。多くの皆様からのご投稿に御礼申し上げます。

また、東北の役割と位置付けた「語り部の活動は、「震災コーナー」としてページを設け、継続していくこととしました。

◆震災以降、東北への変わらぬご支援をいただいている東海を始め各地の皆様には、心から感謝申し上げますと共に風化させぬ営みとして、私たちもあの記憶を記録に留めていかねばと思います。引き続き皆様からのご投稿を

お待ちしております。

◆「振り込め詐欺」の被害が後を絶たない状況に心を痛める昨今です。不審な電話や勧誘には、一呼吸おいて良く考え、先ず、周りの人に一言相談してみましよう。

◆75号の巻頭言作成にあたっては、N T T 東日本宮城支店様にご協力をいただきました。心より感謝申し上げます。

◆今夏は、エルニーニョの影響で東北は冷夏が予想されているとか。健康や農作物などへの影響がないことを祈ります。くれぐれもご自愛のうえお過ごしください。

◆次号（76号）会報について

・発行時期 平成27年1月1日

・原稿締切 平成26年10月20日（期日厳守）

なお、随想はお一人年一回とさせていただきます。しておりますのでご協力をお願いいたします。

◆次号（76号）の巻頭言作成につきましては、N T T 東日本山形支店様、電友会山形支部のご協力をお願いします。

東北電友会会報 第75号

平成26年8月1日発行

電友会東北地方本部

〒984-8519 仙台市若林区五橋3-2-1

N T T 五橋ビル内

電話 022-212-1443

FAX 022-212-1444

印刷 株式会社 仙台紙工印刷

新入会員募集しています

電友会では、常時、新会員の受付をしています。

皆様のご友人で入会されていない方がおいでになりましたら、ぜひ、入会を勧めていただきますようお願いいたします。

【お問合せ・連絡先】

電友会東北地方本部 電話(022)212-1443